



K コマンド

この章のコマンドは、Cisco MDS 9000 ファミリのマルチレイヤディレクタおよびファブリック スイッチに対応しています。ここでは、コマンドモードに関係なく、すべてのコマンドがアルファベット順に記載されています。各コマンドの適切なモードを確認するには、「コマンドモード」を参照してください。詳細については、『*Cisco MDS 9000 Family CLI Configuration Guide*』を参照してください。

keepalive

Internet Key Exchange (IKE; インターネット キー エクスチェンジ) プロトコルのメッセージ キープアライブ インターバルを設定するには、IKE コンフィギュレーション サブモードで **keepalive** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

keepalive *seconds*

no keepalive [*seconds*]

シンタックスの説明	<i>seconds</i>	キープアライブ インターバルの秒数を指定します。有効範囲は 120 ~ 86400 です。
------------------	----------------	-----------------------------------------------

デフォルト 3600 秒または 1 時間

コマンドモード IKE コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0(x)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン キープアライブ インターフェイスは、IKE バージョン 2 のトンネルにのみ適用されます。このコマンドを使用するには、**crypto ike enable** コマンドを使用して IKE プロトコルをイネーブルにする必要があります。

例 次に、キープアライブ インターバルを設定する例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# crypto ike domain ipsec
switch(config-ike-ipsec)# keepalive 7200
```

関連コマンド	コマンド	説明
	crypto ike domain ipsec	IKE コンフィギュレーション モードを開始します。
	crypto ike enable	IKE プロトコルをイネーブルにします。
	show crypto ike domain ipsec	IPSec ドメインの IKE 情報を表示します。

kernel core

各モジュールのコア ダンプを生成するには、**kernel core** コマンドを使用します。コマンドを無効にするか、または出荷時の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
kernel core {limit number | module slot {force | level {all | header | kernel | ram | used-ram} | target ipaddress}
```

```
no kernel core {limit number | module slot {force | level {all | header | kernel | ram | used-ram} | target ipaddress}
```

シンタックスの説明

limit number	コアを生成するモジュールの数を制限します。有効範囲は 1 ～ 6 です。
module slot	コア生成が必要なモジュールを設定します。
force	モジュールに強制的にカーネル コアをダンプさせます。
level	選択したモジュールのコア ダンプ レベルを指定します。
all	すべてのメモリをダンプします (1 g のスペースが必要です)。
header	カーネル ヘッダーのみをダンプします。
kernel	すべてのカーネル メモリ ページをダンプします。
ram	すべての RAM ページをダンプします。
used-ram	使用済みの RAM ページをすべてダンプします。
target ipaddress	同一物理 LAN 上の外部サーバ IP アドレスを設定します。

デフォルト

ディセーブル

コマンドモード

コンフィギュレーションモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

スーパーバイザ モジュール上で実行されるコア ダンプは、デュアル スーパーバイザ コンフィギュレーションにおいても、パケットの損失につながる可能性があります。

例

次に、コア生成を 2 つのモジュールに限定する例を示します。

```
switch(config)# kernel core limit 2
succeeded
```

次に、モジュール 5 でコアを生成するように設定する例を示します。

```
switch(config)# kernel core module 5
succeeded
```

次に、モジュール 5 でヘッダーレベル コアのみを生成するように設定する例を示します。

```
switch(config)# kernel core module 5 level header
succeeded
```

次に、外部サーバを設定する例を示します。

```
switch(config)# kernel core target 10.50.5.5
succeeded
```

関連コマンド

コマンド	説明
show kernel	設定されたカーネル コア設定を表示します。
show running-config	PSS に保存されているすべてのスイッチ コンフィギュレーションを表示します。

key

Internet Key Exchange (IKE; インターネット キー エクスチェンジ) プロトコルの事前共有鍵を設定するには、IKE コンフィギュレーションサブモードで **key** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
key key-id {address ip-address | hostname name}
no key key-id {address ip-address | hostname name}
```

シンタックスの説明

<i>key-id</i>	事前共有鍵の ID を指定します。最大 128 文字まで可能です。
address <i>ip-address</i>	ピア IP アドレスを指定します。フォーマットは、 <i>A.B.C.D</i> です。
hostname <i>name</i>	ピア ホスト名を指定します。最大 128 文字まで可能です。

デフォルト

なし

コマンドモード

IKE コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.0(x)	このコマンドが導入されました。
3.0(1)	hostname キーワードが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、**crypto ike enable** コマンドを使用して IKE プロトコルをイネーブルにする必要があります。



(注)

key コマンドは IP アドレスの IPv4 形式のみをサポートします。

例

次に、鍵を設定する例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# crypto ike domain ipsec
switch(config-ike-ipsec)# key ctct address 10.10.100.231
```

次に、設定された鍵を削除する例を示します。

```
switch(config-ike-ipsec)# no key ctct address 10.10.100.231
```

次に、指定されたピアの事前共有鍵を設定する例を示します。

```
switch(config-ike-ipsec)# key sample hostname node1
```

次に、指定されたピアの事前共有鍵を削除する例を示します。

```
switch(config-ike-ipsec)# no key sample hostname node1
```

関連コマンド

コマンド	説明
crypto ike domain ipsec	IKE コンフィギュレーション モードを開始します。
crypto ike enable	IKE プロトコルをイネーブルにします。
show crypto ike domain ipsec	IPSec ドメインの IKE 情報を表示します。

key-ontape

キーをテープ モードに設定し、暗号化されたセキュリティ キーをバックアップ テープに保存するには、**key-ontape** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

key-ontape

no key-ontape

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト ディセーブル

コマンド モード Cisco SME クラスタ コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	3.2(2)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにより、暗号化されたセキュリティ キーがバックアップ テープに保存されます。



(注) この機能は一意のキーに対してのみサポートされています。

このコマンドを使用する前に、**auto-volgrp** コマンドを使用して自動でのボリューム グルーピングをディセーブルにする必要があります。

例 次に、key-ontape 機能をイネーブルにする例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# sme cluster clusternam1
switch(config-sme-cl)# key-ontape
```

次に、key-ontape 機能をディセーブルにする例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# sme cluster clusternam1
switch(config-sme0-cl)# no key-ontape
```

関連コマンド	コマンド	説明
	no shared-key	一意のキー モードを指定します。
	no auto-volgrp	自動でのボリューム グルーピングをディセーブルにします。
	show sme cluster key	クラスタ キー データベースの情報を表示します。
	show sme cluster tape	テープの情報を表示します。